人権学習展開例 第1学年

主題名 差別・偏見のない社会を築くために

教材名 ちがいのちがい（参考資料/中川喜代子著「寛容性」明石書店）

人権学習の視点 普遍的な視点「差別の構造」－差別につながる偏見－

主題・教材について 「ちがい」の中には、「あってよいちがい」「あってはいけないちがい」がある。「あってよいちがい」には、文化の違い、個人の自由や個性の違いがあり、それらの違いを認め合い尊重していこうとする態度を養いたい。更に、「あってはいけないちがい」を見過ごさず、決めつけ・排斥などによる差別・偏見を許さない人権感覚を養いたい。

ねらい 互いの個性の違いを認め合い尊重していこうとする態度を養うとともに、「あってはいけないちがい」を見過ごさない人権感覚の素地を培う。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	**「あってよいちがい」「あってはいけないちがい」に分け、その理由を考えよう。**				
	○「ちがい」の中には、「あってよいちがい」と「あってはいけないちがい」があることに気付かせる。	一斉 個別	○10個のカードを「あってよいちがい」と「あってはいけないちがい」に分け、その理由を書く。	○自分の考えを、自信を持ってはっきり書かせる。	資料集 ワークシート 項目①
展開	**グループで話し合って、まとめた意見を発表しよう。**				
	○友達の意見を聞く中で、「ちがい」について様々な捉え方があることを知り、意見交流を通して人権についての意識を深めさせる。	グループ 一斉	○グループで「あってよいちがい」と「あってはいけないちがい」について意見交流し、グループとしての分類を模造紙に記入する。 ○グループ毎に発表する。 ○他のグループの意見を聞き、「あってよいちがい」「あってはいけないちがい」についての捉え方を深める。	○他者の意見のポイントに注意して聞かせる。 ○理由を添えて、自分の意見をはっきりと伝えさせる。 ○意見が異なった場合には、互いの意見を十分に聞き合い、まとめていくように助言する。 ※学級の実態や指導時間に合わせて、項目を分けて発表したり、個人で発表させたりする。	（模造紙 マジック）
	「あってよいちがい」「あってはいけないちがい」それぞれに共通している特徴を考えよう。				
	○「あってよいちがい」について、みんなそれぞれ違って良いんだということを十分に理解させる。 ○「あってはいけないちがい」は、人権を侵害するものであることを理解させる。	個別 一斉	○「あってよいちがい」は、趣味・性格・特技など、個性や文化に関わる違いであることを理解する。 ★「あってよいちがい」→個人として認められるべきものであり否定されないもの ★「あってはいけないちがい」→違ってもよいことなのに、不当な扱いを受けたり、排除されたりすること。	○「ちがい」はあって当たり前、「ちがい」があるからこそ社会が成り立っているという視点に立ち、一人一人が違って良いのだということを認識できるようにする。 ※「あってよいちがい」「あってはいけないちがい」を黒板の左右に分けて、それぞれの特徴を板書にまとめ、はっきりと分かるようにする。	ワークシート 項目②
	身近な生活の中で「あってよいちがい」「あってはいけないちがい」の例を考えてみよう。				
	○身近な生活の中で両方の例を考えることにより、「あってよいちがい」と「あってはいけないちがい」を見極める判断力を身に付けさせる。	グループ 一斉	○身近な生活の中で様々な例を出し合い、ワークシートに書く。 ○いくつかの例を発表し合い理解を深める。	○できるだけ多くの例が出せるよう、自由に討議できる雰囲気を作る。 ○「あってよいちがい」「あってはいけないちがい」について再度確認する。	ワークシート 項目③
まとめ	○人権を大切にする視点に立ち、「あってよいちがい」「あってはいけないちがい」についてまとめさせる。	個別	○「あってよいちがい」「あってはいけないちがい」を決める判断基準についてふれながら、今日の学習の感想を書く。	○「あってはいけないちがい」を許さない社会を築くことができるよう、人権視点をはっきりさせる。	ワークシート 項目④

評価 互いの個性の違いを認め合い尊重していこうとする態度を養うとともに、「あってはいけないちがい」を見過ごさない人権感覚の素地を培うことができたか。